

一橋大学国際・公共政策大学院

P4P 研究会キックオフセミナー

DPC 時代のカギを握る P4P (Pay for Performance)

<はじめに>

当大学院では最近、インフォーマルな形ではあるが有志が集まって、「P4P 研究会」を組織中である。P4P(Pay for Performance)～「業績評価に基づく優遇給付プログラム」は、パブリックマネジメントにおけるある種の「アウトカム評価政策」であり、21 世紀の医療福祉政策だけにとどまらず、多くの分野の公共政策を考える上で興味深いプログラムである。P4P の先進国、米国では“P4P は伝統的な風土や文化を変える革命である”とも言われている。そこで、P4P 研究会活動のスタートとして、キックオフセミナーを下記の要領で開催する。

<なぜ、P4P なのか？>

増加する医療費を抑えることは、21 世紀公共政策における重要課題のひとつである。その政策は諸外国の事情によって多少は異なるものの、おおむね、診療報酬の伝統的な支払方法（出来高払い）の見直しに手をつけ、医療サービスを包括し定額で給付するような方策が医療費の効率化を図る上で効果的だとされている。ただ、包括定額時代は医療サービスの品質が危機に陥る可能性も否めない。従って、医療費を削ればサービスの質が落ちるといえば、コストと質のまた裂き状態に直面することもある。そこで、公共政策の観点から見れば、品質改善を動機付け、改善向上の努力に報いる病院や診療所を高く評価するような品質重視政策が同時並行的に求められている。たとえば、米国では病気の種類によって入院一回当たりの医療費を前もって丸めて定額で給付する PPS・DRG が 24 年前から進行中だが、近頃の品質の低下は深刻である。2002 年、米国の国立医学研究所 (IOM) は警告を発し、医療機関の品質改善にインセンティブを与えるような公共政策が必要だと訴えた。P4P (Pay for Performance) はそのひとつの方策である。これは医療サービスの提供

成果を測定し、計量的な分析手法などによって評価した業績優良病院などに診療報酬を優遇加算給付するプログラムである。従って、P4P は臨床指標や患者満足度などのような評価体系に支えられると同時に、ベンチマーク指標による統計比較分析など、計量経済学的手法にも支えられている。日本でも、入院医療の包括給付（DPC）が始まっており、公共政策の重要課題として P4P が注目される日は近いといえるだろう。そこで、当セミナーは DPC 時代のカギを握る「品質改善政策」として P4P プログラムに焦点を当て、品質や業績を科学的に測定評価するために必要な道具や手法の知識を深め、品質改善に取り組む身近な病院のケーススタディから品質評価や業績改善の在り方を学ぶ場とする。

キックオフセミナー・プログラム

日時：6月23日 午後1時30分～5時

場所：神田一橋記念講堂（学術総合センター1階）

[地図 <http://www.nii.ac.jp/map/hitotsubashi-j.html>]

テーマ：DPC 包括給付時代の鍵を握る P4P (Pay for Performance)

13：30～13：35 開会挨拶

13：35～14：20 <基調講演> 「医療における品質評価の取り組みとその課題：リスクマネジメントを考える」

講師：高木安雄教授（慶応大学大学院健康マネジメント科）

14：20～15：00 <事例報告> 「秀和総合病院における品質管理の取り組み」

講師：米島秀夫理事長（秀和総合病院（埼玉県春日部市））

15：00～15：15 …… コーヒー・ブレイク ……

15：15～17：00 <パネルディスカッション>

“包括給付時代の質評価と公共政策について”

<パネリスト> 高木安雄教授（慶応大学大学院健康マネジメント科）
米島秀夫理事長（秀和総合病院（埼玉県春日部市））
須磨忠昭（一橋大学政策大学院特任教授・メディアーク経営研究所）
加藤良平（㈱ケアレビュー・一橋大学非常勤講師）
井伊雅子（一橋大学政策大学院教授）
川渕 孝一（東京医科歯科大学大学院教授）
河口洋行（国際医療福祉大学准教授）

<司会> 佐藤主光（一橋大学政策大学院准教授）

17：00 閉会